

生涯暮らせる 3タイプの住まい

「アシステッドナーシング&リビング鶴の苑」(以下、「鶴の苑」)は、東急田園都市線南町田駅から徒歩6分の住宅街にある。

平成16年に開業した「鶴の苑」には、入居者の健康状態に応じた「ヒルトガーデン」「アシステッドナーシングフロア」「スペシャルケアフロア」という3つの居住ゾーンのほか、デイサービス、診療所、薬局、訪問看護ステーション、訪問介護事業所が併設されている。また、敷地内にある平屋のコミュニティ棟は、「鶴の苑」で亡くなった人の葬儀にも利用されており、多くの職員が参列して最期のお別れをしている。平成27年には、死亡退去者23人のうち21人を、「鶴の苑」で看取ったという。

運営母体は、昭和28年、曹洞宗僧侶の市原秀翁氏が創立した社会福祉法人合掌苑(現理事長は森一成氏)である。法人の理念として「人は尊厳を持ち、権利として生

きる」を掲げ、東京都町田市と横浜市瀬谷区で、高齢者事業を中心に展開している。

フロアごとの主な特徴は図表のとおりだ。建物全体で115室に121人が暮らし、平成27年の平均稼働率は98.7%と極めて高い。

比較的元気な高齢者向けの住まいは、5〜7階の「ヒルトガーデン」である。利用権方式の住宅型有料老人ホームの一般居室は、ゆつたりめの2人部屋タイプで、3フロアに計23室ある。「鶴の苑」のなかで最も人気があり、入居まで約2年待ちとのことだ。

「ヒルトガーデン」で使える生活サポートには、安否確認、緊急時対応ナースコール、家事などが含まれる。また、有償サービスとして、外出の介助、買い物などの代行、入退院時サービスがある。

要介護になっても、在宅サービスを利用しながら住み続けることはできるが、実際には要介護度3程度になるとほとんどの人が、「アシステッドナーシングフロア」に移ることを希望するそうだ。認知症で独居生活が困難になると、

「スペシャルケアフロア」に移行する。このとき、償却期間内であれば入居金の差額は精算される。

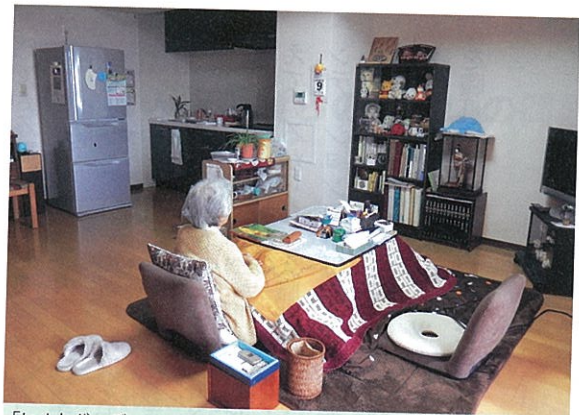
認知症の人が 混乱しない配慮も

「スペシャルケアフロア」には、7〜9人のユニットが3つ、エレベーターホールを中心にT字型に配置され、フロア全体では19〜21㎡の個室が24室ある。認知症の高齢者は、夕方になると「家に帰りたい」願望の症状が現れる人が少なくない。そのため、リビングには、赤ちゃんの人形が寝ている小さなベッドを置いたり、自宅に電話したい人用の黒電話を置いたりして家庭的な雰囲気にしていく。黒電話から電話をかけると、スタッフ

図表 「鶴の苑」のフロア概要

「鶴の苑」の住まい	ヒルトガーデン	アシステッドナーシングフロア	スペシャルケアフロア		
	元気な人	介護を必要とする人	認知症の人		
居室	住宅型有料老人ホーム		介護付き有料老人ホーム		
	一般居室	介護居室	一般	認知症専門	
	5〜7階	1階	3〜4階	2階	
居室	居室数	23	10	58	24
	定員	46	10	58	24
	居室面積	51〜66㎡	20㎡	20㎡	19〜21㎡
	平均年齢	86歳	88.2歳	88.3歳	88.7歳
入居時費用	入居金	1380万円(7年償却)	798万円(5年償却)		
	月額費用 (家賃相当+食費 調理費+管理費+ 上乗せ介護費 (介護付きのみ))	小計	276,000円~ 364,000円	249,600円	292,800円
利用する介護保険	在宅サービス		特定施設入居者生活介護サービス		

のPHSにつながるという。フロアから出入りできる2つの空中庭園には、レトロな看板、バス停や赤いポストなどが置かれ、昭和の時代を彷彿とさせるつくりだ。重度の認知症で、大声を上げる、家族を突き飛ばす、徘徊するといった症状がある人も受け入れ



「ヒルトガーデン」で最も広い居室



「スペシャルケアフロア」のエレベーターホール

ているが、ここでの生活に慣れてくると、徐々に症状は落ち着いてくるという。家族の協力を得て、入居者本人の生まれてからの人生の歩みをまとめた「ライフストーリーブック」を作成し、症状が出たときのコミュニケーションのきっかけに利用している。

現在は、合掌苑以外の事業者が提供するサービスを利用している人はいないという。費用も、住宅型では在宅サービスを利用した出来高払いであるのに対し、介護付きは、特定施設入居者生活介護による包括払いである。たとえば、要介護度5の人の場合、ひと月にかかる費用の平均は、介護保険の自己負担分(1割の場合)を含め、住宅型ではおよそ30万円であるのに対し、介護付きではおよそ34万円である。とはいえ、どちらもほぼ満室であるため、実際には空いている部屋に入居せざるを得ず、「鶴の苑」

で暮らしたい人にとって、この料金の差は大きな問題にはなっていないようだ。

生活を豊かにする アクティビティや食事

ソフト面での特徴は、なんといっても「グッドタイムクラブ」と呼ばれる60種類に及ぶ豊富なアクティビティだ。「今週のスケジュール」をみると、体操や合唱、生け花など、多い日には8つのメニューが組まれている。なかでも「ビンゴ」は大人気で、日曜日を除く毎日行われている。このアクティビティには、デイサービスに通う人も参加するため、仲間づくりに役立つようだ。

食生活を重視する「鶴の苑」では、食事は直営で提供している。「合掌苑の食生活10か条」元気に幸せに生きるために」にもとづき、主食は玄米や全粒粉のパンなど未精製の穀物を提供している。また、三食いずれも主菜を2種類から選択できるなどの工夫もされ



赤ちゃんの人形たちが眠るベッド

ている。お酒も自由に持ち込むことができるので、ボトルをキープしている人や、レストランを貸し切り、家族や友人とパーティーを開く人もいる。正月は連日、複数組の家族で賑わうようだ。

法人の理念に 共感する人材を育成

合掌苑では、働く人を「財産」ととらえ、採用や育成に力を入れている。第一の特徴は、理念に共